

## 感染症一覧（登園停止）

○感染力の強い病気にかかったときは、本人の回復のためにも、また他の子への感染を防ぐためにも一定期間登園を控えることが求められます。保育園では学校保健安全法の「学校、幼稚園、認定こども園、保育所において予防すべき感染症」に準拠して登園停止の病気を定めています。それ以外の感染症については医師の指示に従って下さい。

○症状がよくなって登園する際は、「登園しても大丈夫」という医師の診断が必要です。それを受けて、園指定の「**治癒報告書**」に**保護者の方が記載**して保育園に提出して下さい。

### 【第二種感染症】

病名	感染可能期間	主な症状	登園基準	感染経路	治癒報告書
麻疹（はしか）	発熱出現1日前から解熱後3日を経過するまで	発熱 頬粘膜にコブ状斑（白い斑点） 紅斑（赤い発疹）	発疹に伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで	空気感染、飛沫感染、接触感染	A
風疹	発疹出現7日前から発疹出現7日目頃まで	淡紅色の発疹、軽熱、リンパ腺腫大	発疹が消失するまで	飛沫感染、接触感染、母子感染（胎内感染）	A
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺腫脹6日前から9日後まで	唾液腺特に耳下腺の腫脹	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	飛沫感染、接触感染（春季から夏季に多い）	A
水痘（みずぼうそう）	発疹出現1-2日前から全ての発疹がかさぶたになるまで	軽熱、発疹→水疱	全ての発疹がかさぶたになるまで	空気感染、飛沫感染、接触感染、母子感染（胎内感染）	A
百日咳	咳が出現してから、4週目ころまで	発作性咳の長期反復、持続	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで	飛沫感染、接触感染	A
インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）	発熱1日前から3日目をピークとし、7日目ころまで	発熱、倦怠感、頭痛、腰痛、筋肉痛、咽頭痛、鼻汁、嘔吐、下痢、腹痛、まれに異常行動	発症後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過するまで	飛沫感染、接触感染（毎年12月頃～翌年3月頃にかけて流行する）	A
新型コロナウイルス感染症	発症の2日前から発症後7-10日間程度	発熱、全身倦怠、筋肉痛、咽頭痛、咳、味覚障害	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過すること	飛沫感染、接触感染	A
咽頭結膜熱（アデノウイルス/プール熱）	初期数日をピークに、その後数ヶ月続く	高熱、咽頭痛、頭痛、食欲不振、咽頭発赤、結膜充血など	発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消失した後2日を経過するまで	接触感染、飛沫感染、プールでの感染	A
結核	喀痰の塗抹検査で陽性の間	発熱、咳、痰、血痰、発汗、全身倦怠、食欲不振など	症状により園医その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで（目安として3日連続で喀痰または早朝空腹時の胃液の塗抹検査が陰性となるまで）	主として空気感染	A
髄膜炎菌性髄膜炎（侵襲性髄膜炎菌感染症）	主に4日以内（1-10日）	発熱、頭痛、意識障害	症状により園医その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで（有効な治療開始後24時間を経過するまでは隔離が必要）	飛沫感染	A

【第三種感染症】

病名	感染可能期間	主な症状	登園基準	感染経路	治癒報告書
コレラ		激しい水溶性下痢と嘔吐、脱水症状	治癒するまで	汚染された水、食物、感染者の便などを介した経口感染	A
細菌性赤痢		発熱、腹痛、下痢、嘔吐などが急激に現れる	治癒するまで	感染者の便を感染経路とする経口感染	A
腸管出血性大腸菌感染症	便中に菌が排泄されている間	水様下痢便、腹痛、血便	症状により園医その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで	生肉などの飲食物からの経口感染、接触感染	A
腸チフス、パラチフス		持続する発熱、発疹（バラ疹）、腸出血や腸穿孔	治癒するまで	経口感染	A
流行性角結膜炎	初期数日をピークに、その後数ヶ月続く	眼瞼が腫れる、異物感、眼脂など	症状により園医その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで（目安として結膜炎の症状が消失するまで）	プール水、手指、タオルなどを介して接触感染	A
急性出血性結膜炎	咳や鼻汁から1-2週間、便からは数週間-数か月間	発熱、腹痛、下痢	症状により園医その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで	接触感染	A

【第三種感染症（その他感染症）】

病名	感染可能期間	主な症状	登園基準	感染経路	治癒報告書
溶連菌感染症	抗菌薬投与にて24時間以内に感染力はなくなる	発熱と咽頭痛、咽頭扁桃の腫脹や化膿、リンパ節炎	適切な抗菌薬による治療開始後24時間を経て全身状態がよければ登園可能	飛沫感染、接触感染	B
A型肝炎	黄疸出現1-2週間前に便中に高濃度排出、発症1週間程度感染力はなくなる	発熱、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、下痢、嘔吐、上腹部痛、3-4日後に黄疸	発病初期を過ぎ、肝機能が正常になってから	生の貝類や感染者の糞便中のウイルスの経口感染	B
B型肝炎		倦怠感、発熱、黄疸 (乳幼児期の感染は、無症候性に経過することが多いが、HBVキャリアに移行しやすい)	急性肝炎の極期を過ぎてから	垂直感染（母子感染）、歯ブラシ・かみなどの共有に伴う水平感染、血液・体液感染	B
C型肝炎		子どもにおいて多くは無症状 (黄疸が見られるのは20%未満)	急性肝炎の極期を過ぎてから	血液・体液感染、母子感染	B
手足口病	咳や鼻汁から1-2週間、便からは数週-数か月間	発熱、口腔・咽頭粘膜に痛みを伴う水疱、手・足末端や臀部に水疱	本人の全身状態が安定しており、発熱がなく、口腔内の水疱・潰瘍の影響なく普段の食事がとれるようになったら	経口感染、飛沫感染、接触感染 (流行のピークは夏季)	B

病名	感染可能期間	主な症状	登園基準	感染経路	治癒報告書
ヘルパンギーナ	咳や鼻汁から1-2週間、便からは数週-数か月間	発熱、咽頭痛、咽頭に赤い発疹→水疱	本人の全身状態が安定したら	経口感染、飛沫感染、接触感染（流行のピークは7月頃）	B
無菌性髄膜炎（エンテロウイルスによる）	咳や鼻汁から1-2週間、便からは数週-数か月間	乳児では発熱、不機嫌など 年長児では発熱、頭痛、嘔吐、羞明	本人の全身状態が安定したら	経口感染、飛沫感染、接触感染	B
伝染性紅斑（りんご病）	かぜ症状出現から発疹出現まで	かぜ様症状、顔面の紅斑	本人の全身状態が安定したら （発疹のみで全身状態がよい場合は登園可能）	飛沫感染、母子感染（胎内感染）	B
ロタウイルス感染症	急性期が最も感染力が強いが、便中に3週間以上排泄されることもある	嘔吐、下痢（時に下痢便が白くなる）	下痢・嘔吐症状が消失した後、本人の全身状態が安定したら	経口感染、接触感染、飛沫感染（冬季から春季に多く発生）	B
ノロウイルス感染症	急性期が最も感染力が強いが、便中に3週間以上排泄されることもある	嘔吐、下痢	下痢・嘔吐症状が消失した後、本人の全身状態が安定したら	経口感染、接触感染、飛沫感染（イノシシ化した吐物からの空気感染）	B
肺炎マイコプラズマ感染症	症状のある間がピーク 保菌は数週-数か月間	咳、発熱、頭痛などの風邪症状、激しい咳、中耳炎・鼓膜炎、発疹	発疹や激しい咳が治まり、本人の全身状態が安定したら	飛沫感染（家庭内感染や再感染も多い）	B
肺炎球菌感染症	1-3日。保菌している間は感染させる可能性あり	気管支炎、肺炎、中耳炎、髄膜炎、敗血症	発熱、咳などが軽快し、本人の全身状態が安定したら	飛沫感染	B
RSウイルス感染症	通常3-8日	発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴	咳などが安定した後、全身状態がよくなったら	接触感染、飛沫感染	B
ヒトメタニューモウイルス感染症	通常1-2週間	咳嗽、喘鳴 喘息発作の悪化などに関与する	咳などが安定した後、全身状態がよくなったら	接触感染、飛沫感染	B
帯状疱疹		小さな水疱が神経の支配領域に沿って片側性に帯状に現れる	全ての発疹がかさぶたになるまで	接触感染	B
突発性発疹		39.5℃以上の発熱が3-4日続いた後、解熱とともに発疹が出現し、数時間から数日間持続する	解熱し、機嫌がよく、全身状態がよくなったら	接触感染	B

令和5年9月更新

※上記の感染症についてはすべて「治癒報告書」の提出が必要です。

※治癒報告書欄がAのものに関しては、症状が軽快した後に再度医療機関を受診し、医師から登園再開の許可をいただいでください。

（インフルエンザと新型コロナウイルス感染症に関しては、規定の日数を経過していれば再度医療機関を受診する必要はございません。）

※登園停止期間の日数の数え方：その症状が見られた日（発症した日）を0日とし、その翌日を第1日として算定します。

※病状により園医その他の医師において感染のおそれがないと認められる場合については、この限りではありません。

その他の感染症に罹患した場合、登園再開については主治医の指示に従ってください。

## 感染症一覧（登園可能）

病名	感染可能期間	主な症状	登園基準	感染経路
アタマジラミ症		一般に無症状であるが、吸血部位にかゆみを訴えることがある	適切な治療を行えば、登園やプールに制限はない	接触感染（タオル、ク、帽子を介しての間接感染）
伝染性軟属腫（水いぼ）		いぼ以外の症状はほとんどない 発生部位は体幹、四肢	制限はないが、浸出液が出ている場合は被覆する	感染者との接触による直接感染、タオルの共有による間接感染
伝染性膿痂疹（とびひ）		紅斑を伴う水疱や膿疱が破れてびらん、かさぶたをつくる	制限はない （病変部をガーゼ等で覆い、プールは控える）	接触感染（かさぶたにも感染性が残っている）
疥癬（かいせん）		手足を中心に痒みの強い赤みのある発疹、小さな水疱、膿疱、疥癬トンネルができる	治療開始後であれば、登園可能	接触感染（手つなぎ、布団やリネン類の共有などで感染する）

令和5年9月更新

※上記の感染症について、「治癒報告書」の提出は必要ありません。